介護過程の教育方法に関する一考察
―長期実習とグループスーパービジョンを通じて―

柳澤　利之・土永　典明・荒木　重嗣

Report on the teaching method of care working process.
－ Long-term training and group supervision －

Toshiyuki Yanagisawa, Noriaki Tsuchinaga, Shigetsugu Araki

１．はじめに

我が国においては、団塊の世代が65歳以上に達する平成27年（2015年）を目前にし、さらに10年後の平成37年（2025年）には75歳以上の後期高齢者数が2,000万人を超えることが見込まれている[1)]。このような中、認知症の者や医療ニーズの高い重度の者の増加等、国民の福祉・介護ニーズはより多様化・高度化してきている状況にあり、これらのニーズに的確に対応できる質の高い人材を安定的に確保していくことが喫緊の課題となっている。多様化するニーズに的確に対応できる人材を養成するため、平成19年（2007年）に「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」が成立、公布された。この法律改正と併せて、介護福祉士養成課程における教育カリキュラム等を見直し、今後、より一層質の高い介護福祉士を養成していくこととされた。新カリキュラムについては、平成21年（2009年）４月より実施されている。

新カリキュラムでは、「これからの社会においては、障害の有無や年齢に関わらず、個人が尊厳をもった暮らしを確保することが重要であり、介護サービスにおいては、利用者一人ひとりの個性や生活のリズムを尊重した介護（個別ケア）の実践が必要とされている」との観点から、「個別ケアの実践」を人材教育目標の一つとして位置づけられている[2)]。これを受けて、従来、介護概論等の科目の一分野として組み込まれていた「介護過程」に関する項目が、独立した150時間の教育科目として設けられた。さらに、介護実習については、利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置いた「実習施設・事業等（Ⅰ）」と、一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置いた「実習施設・事業等（Ⅱ）」に区分され、後者に全実習（450時間）の３分の１以上の時間を充てることが定められた。このことは、介護福祉士養成教育において、これまで以上に個別ケアの実践能力を養うための介護過程教育の重要性が高まっていることを示している。

本学でも法改正に伴い、平成21年（2009年）度入学生から教育カリキュラムの大幅な見直しを行った

が、とりわけ介護過程の教育については実習教育を含め、重点を置くものであった。中心となる見直し内容としては、１）「実習施設・事業等（Ⅱ）」について、一般的に行われている集中型実習（約１ヶ月間に150時間の実習を集中的に行う実習形態）ではなく、週２日、約２ヶ月半の長期にわたって実習を行うことで、利用者との信頼関係の構築に努めさせるとともに、アセスメントやプランニングに十分な時間をかけられるようにした　２）学生の少人数グループを編成し、１）の実習と同時並行で、教員がグループスーパービジョンを行い、この中で学生の実習状況の詳細を把握し、指導を行うと同時に、学生同士が学び合う機会を設けたことの２点である。本稿では、本学における介護過程の教育方法について、実習指導者および学生に対するアンケート調査の結果から、その効果と問題点を考察する。

２．本学の介護過程の教育方法の概要

２－１　実習教育の全体像

本学のカリキュラムは、「学生の成長モデル」（図表１）のとおり、学内学習と実習を交互に履修しながら成長を図ることを念頭に置いて、授業科目の履修時期および内容と実習時期および実習内容を連動させて編成することによって、学習効果を高めることを図っている。すなわち、実習教育を中核に据え、実践力の養成を重視したカリキュラムを編成している。

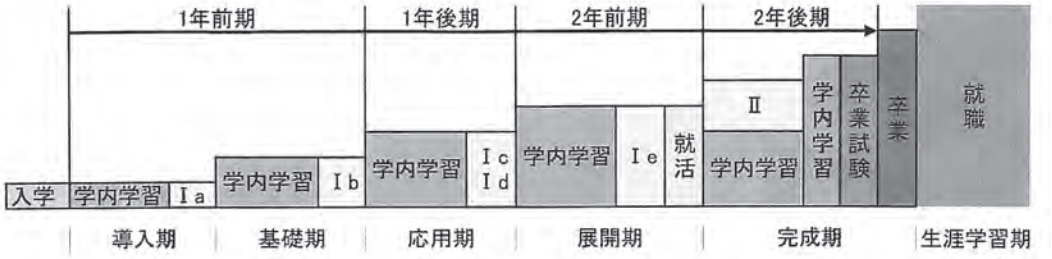
カリキュラムの中心となる介護実習は、「介護基礎実習」（120時間・４単位）、「介護応用実習」（180時間・６単位）、「介護過程展開実習」（150時間・５単位）の３科目（450時間・15単位）で構成される。「介護福祉士学校の設置及び運営に関する指針」における「実習施設・事業等（Ⅰ）」は「介護基礎実習」と「介護応用実習」に該当し、「実習施設・事業等（Ⅱ）」は「介護過程展開実習」に該当する。それぞれの実習を、ⅠaからⅠeおよびⅡの６段階から構成し、Ⅰaは１週間（40時間）、Ⅱは２カ月半（150時間）と徐々に時間数を増やすことにより、学生が無理なく現場へ適応できるようにしている。実習段階が進むごとに、達成すべき目標・課題が高度化する。詳細は、（図表２）に示す。

２－２　介護過程の教育方法

先に述べたとおり、本学のカリキュラムは、学内学習と実習を交互に履修しながら成長を図ることを目的とし、授業科目の履修時期および内容と実習時期および内容を連動させて編成されているが、これは介護過程の教育についても同様である。１年次は、前期の「介護の基本Ⅰ」で介護過程についての導入教育を行い、１年後期の「介護過程Ⅰ」（30時間・1単位）ではアセスメントを中心に演習した上で、1年後期末の「介護応用実習（Ⅰd）」においてアセスメントの実習を行う。次いで、２年前期の「介護過程Ⅱ」（60時間・２単位）では、課題および目標の明確化、介護計画の作成、実施、評価に至る一連の過程について、「介護応用実習（Ⅰd）」で学生自らが取り組んだ利用者のアセスメントの結果を用いて演習を行った上で、２年後期「介護過程展開実習」で一連のプロセスを実習する。また、「介護過程展開実習」と同時並行して「介護過程Ⅲ」（60時間・２単位）を開講し、学生の少人数グループに対して教員がグループスーパービジョンを行い、この中で学生の実習状況の詳細を把握し、必要な指導を行うと同時に、学生同士がともに学び合う機会を設けている。詳細は、（図表３）に示す。

中でも特徴的な点は、週２日（原則として木曜日と金曜日）、２か月半にわたって行う「介護過程展開実習」である。介護実習は、短期間に集中して毎日実習する形態が一般的であり、本学でも旧カリキュラムでは集中型実習で介護過程の展開について実習していたが、１）利用者との信頼関係の構築や、アセスメントを十分に行うことができないまま計画を作成し、実施するということが少なくなかった。

（図表１）学生の成長モデル



（図表２）本学の実習教育の全体像

区分	科目名	実習段階	実習施設	単位数	時間数	時期	主な内容
介護実習Ⅰ	介護基礎実習	Ⅰa	通所介護事業所等	4	40	1年6月	利用者の理解とこれに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践に主眼を置く入門的な実習。
		Ⅰb	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設		80	1年8月	介護実習Ⅰaの内容に加え、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに主眼を置く実習。
	介護応用実習	Ⅰc	身体障害者療護施設 知的障害者更生施設 重症心身障害児施設	6	20	1年2月	障害者施設における利用者理解、コミュニケーション、他職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに主眼を置く実習。 3施設が合築されている法人において、全員が3日間で1日ずつ各施設での見学や体験ができるよう、2泊3日で編成する。
		Ⅰd	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設等		120	1年3月	コミュニケーション能力、他職種協働の実践能力、介護技術を高めることに主眼を置く実習。アセスメントの基礎実習を含む。
		Ⅰe	訪問介護事業所(1日) 認知症対応型共同生活介護事業所若しくは小規模多機能型居宅介護事業所(4日)		40	2年8月	訪問介護、認知症対応型共同生活介護事業、小規模多機能型居宅介護事業における利用者理解、他職種協働の実践、介護技術の確認を行うことに主眼を置く実習。
介護実習Ⅱ	介護過程展開実習	Ⅱ	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設等	5	150	2年10月 ｜ 12月	一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置く実習。 学生は週2日間、施設に出向き実習を行い、学内では並行して「介護過程」「介護総合演習」を受講することによりスーパービジョンを行う。
合計				15	450		

注１）「区分」とは、「介護福祉士学校の設置及び運営に係る指針」に基づく実習区分を指す。
注２）「科目名」とは、本学学則に定められた科目名を指す。
注３）「実習段階」とは、人間総合学科「介護実習に関する内規」に定める実習区分を指す。

（図表３）介護過程の教育方法

教育科目名	実施時期		教育方法・内容
介護の基本Ⅰ	1年前期	１年次７月	・個別ケアの考え方 ・個別ケアの具体的展開についての講義
介護過程Ⅰ	1年後期	１年次10月～2月	・介護過程の意義、目的、目標についての講義 ・自立に向けた介護過程の展開の実際についての講義 ・利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際についての講義 ・情報収集とアセスメントについての講義 ・事例に基づくアセスメントについての演習 （情報収集の方法、アセスメント表の書き方等）
介護応用実習（Ⅰd）	1年後期	1年次3月	・特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設において120時間（1日8時間×15日間）の実習を行う ・実習期間中、利用者１名を選定して、アセスメントの実習を行う
介護過程Ⅱ	2年前期	2年次4月～8月	・課題、目標のとらえ方についての講義 ・事例に基づく課題、目標のとらえ方についての演習 ・計画、実施、評価の方法についての講義 ・事例に基づく計画、実施、評価についての演習 ・ケースカンファレンスについての講義 ・介護応用実習（Ⅰd）で行ったアセスメント結果に基づき介護計画を作成し、ケースカンファレンスを行うまでの演習
介護過程展開実習	2年後期	2年次10月～12月	・特別養護老人ホームまたは介護老人保健施設において150時間以上（1日8時間×19日間）、週2日間、施設に出向き実習を行う ・実習期間中、1～2名の利用者を選定して、アセスメント、介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践する ・円滑に実習に入ることができるよう、学生には9月中に1日6時間以上3日間の自主実習（ボランティア活動）を行い、施設概要、業務の概要、利用者の把握に努める
介護過程Ⅲ	2年後期	2年次10月～2月	・介護過程展開実習と同時並行で開講し、教員がグループスーパービジョンを行う ・教員は学生の実習状況の詳細を把握し、必要な指導を行うと同時に、学生同士がともに学び合うことができるよう促す （実習期間中） ・グループ内で一人ずつ実習状況、介護過程展開の進行状況、現時点での事例報告、困っていることなどを報告する ・1人ずつの発表に対して、全体で意見交換の行い、最後に教員が必要な助言・指導を行う ・上記の進行は学生が交替で行う ・上記を踏まえ、一人ずつ次回実習時に行うべき課題、目標、取り組み内容を明確化し、教員に報告する ・教員は記録類一式の点検を個別に行う ・指導に時間を要する学生については授業終了後に個別指導を行う （実習終了後） ・実習での介護過程展開について事例報告書を作成する ・グループ内で発表、意見交換を行い、それをもとに事例報告書の見直しを行う ・各グループから3名の代表者を互選により選出し、1年生を交えて事例報告会を行う ・事例報告会の運営は全て学生が役割分担して行う

２）事前事後指導と巡回指導だけでは十分に介護過程を展開できない学生が少なくなかったなどの問題点があったため、新カリキュラムではこれを改めるために長期実習の形態をとった。長期実習の導入にあたり、週２日間の実習では、利用者の顔や氏名、施設の概要等をなかなか把握ができないのではないかという懸念があったため、実習前に配属された施設での自主実習を行うこととした。学生は、１日６時間程度のボランティア活動を３日以上行い、この中で利用者の把握、施設概要の把握に努めさせることとした。

３．学生および実習指導者に対するアンケート調査

３－１　アンケート調査の方法

本学における介護過程の教育方法の効果および課題について検証することを目的として、平成22年度（2010年度）および平成23年度（2011年度）に介護過程展開実習を行った学生と、受け入れていただいた実習指導者を対象としてアンケート調査を実施した。学生に対しては各年度の「介護過程Ⅲ」の最終授業時に自記式による集合調査を、実習指導者に対しては各年度の介護過程展開実習終了後1か月間で自記式による郵送調査を実施した。学生の回答については無記名としたが、実習指導者についてはその後より詳細な意見を聴くことを可能にするため記名式とした。いずれも量的分析を行うためには調査対象の母数が少ないため、各質問項目には選択肢を設けず、自由記述とした。平成22年度学生29人中26人、平成23年度学生32人中29人、平成22年度実習施設19か所中19か所、平成23年度実習施設22か所中17

（図表４）学生に対する質問項目

1．従来の集中型（一定期間、連続して毎日実習する）と比較して、良かったと思われる点はありましたか？できるだけ具体的に記入して下さい。
2．集中型の実習と比較して、良くなかったと思われる点はありましたか？ できるだけ具体的に記入して下さい。
3．実習と並行して行った「介護過程Ⅲ」 の授業は実習を行うに当たって役に立ちましたか？役に立った場合は、具体的にどのようなことが役立ったか記入して下さい。
4．今回の介護過程展開実習において苦慮した点はありましたか？
5．介護過程展開実習に際し、早期に実習施設に適応できることを目的として、９月に３日間程度の自主実習を課しました。自主実習に関して何かご意見はありますか？
6．介護過程展開実習をより良いものにするために、何かご意見がありましたら、以下に記入して下さい。

（図表５）指導者に対する質問項目

1．従来の集中型（一定期間、学生が連続して毎日実習する）と比較して、良かったと思われる点はありましたか？
2．今回の介護過程展開実習において、学生指導や学生対応等で苦慮した点はありましたか？
3．介護過程展開実習に際し、早期に実習施設に適応できることを目的として、９月に３日間程度の自主実習を学生に課しました。自主実習に関して何かご意見はありますか？
4．介護過程展開実習をより良いものにするために、何かご意見がございましたら、以下にご記入下さい。

か所から回答を得ることができた。質問項目については、（図表４）（図表５）に示す。

３－２　アンケート調査の結果

アンケート調査の結果について、傾聴すべき意見、指摘が多いため、その詳細を（図表６）（図表７）に示す。

集中型実習と比較して良かった点について、学生および実習指導者ともに、「（学生が）実習に余裕を持って臨むことができる」「じっくりと利用者に向き合うことができる」「課題に十分な時間をかけることができる」「大学からの指導が受けやすい」「利用者の変化を長期にわたって観察することができる」などの意見が目立った。

一方、集中型実習と比較して良くなかった点、苦慮した点について、学生からは、「実習日以外の曜日の業務を体験することができない」「実習日以外の利用者の様子を観察することができない」「利用者の名前を覚えるのに時間がかかった」「利用者に対する介護方法を覚えるのに時間がかかった」「施設の様子、業務を覚えるのに時間がかかった」「１週間前に受けた指導内容を思い出すのが容易ではない」「指導者とすれ違いになり相談することが難しかった」などの意見が目立った。実習指導者からは、学生と同様の意見に加えて、「継続的な指導ができない」「指導しづらい」「学生がどこまで把握しているのか分かりにくい」という意見もあった。

自主実習（ボランティア活動）について、学生、実習指導者ともに、「自主実習を行うことでスムーズに実習に入ることができた」など、その有効性を評価する意見が多かった。一方で、学生からは、「本実習で配属される場所と同じ場所で活動したかった」「3日間では足りない」、実習指導者からは、「学生が明確な目的意識を持って来なければ意味がない」「受け入れが困難」といった意見もあった。また、学生、実習指導者ともに、「実習なのか、ボランティアなのか、その位置づけを明確にした

（図表６）学生に対するアンケート調査の結果

調査年 質問項目	H22年度	H23年度
集中型の実習と比較して良かった点	・毎回、気力と体力を回復させて実習に臨むことができた（５） ・次回実習日の準備をする時間的な余裕がある（４） ・時間をかけて介護計画の検討、見直しができて良かった（４） ・集中型実習は孤独感が強く、自分だけができていないような気持ちが強かったが、同級生の進行状況もわかり、自分が抱えている問題を多くの人の意見を参考に解決できたため、不安が少なかった（３） ・時間をかけて記録をまとめることができた（３） ・介護過程の展開にじっくり取り組むことができた（２） ・集中型だと最終週は疲労が大きいが、今回は最後までベストコンディションで臨むことができた（２） ・わからないことや困ったことを大学で相談しやすかった（１） ・後半は集中型の実習以上に利用者とコミュニケーションを取ることができるようになった（１） ・常に緊張感を持って実習することができた ・実習課題や目標について一つずつ確実に取り組むことができた ・長期の実習を就職前に経験することができて良かった ・途中、対象者が入院されたが、実習期間中に戻ってこられたので、計画を見直し、実施することができた ・実習時間とそれ以外の時間の気持ちの切り替えが上手にできた	・毎回、気力と体力を回復させて実習に臨むことができた（１７） ・時間をかけて記録をまとめることができた（５） ・次回実習日の準備をする時間的な余裕がある（３） ・授業と並行して行われたため、1日1日の体験を整理しながら実習することができた（３） ・集中型実習以上に常に緊張感を持って実習に集中することができた（３） ・自分が抱えている問題を多くの人の意見を参考に解決できたため、不安が少なかった（１） ・時間をかけて介護計画の検討、見直しができて良かった（２） ・集中型実習は同級生の実習状況が分からないので、自分だけができていないような気持ちが強かったが、同級生の進行状況もわかり、自分が抱えている問題を多くの人の意見を参考に解決できたため、不安が少なかった（１） ・間をあけて利用者に関わることで逆に変化に気づきやすかった ・先生の指導を受けやすい ・時間の経過による利用者の変化を長期にわたって観察、考察することができた ・集中型の実習では時間に追われじっくり取り組むことができないことに取り組むことができた ・集中型実習と同じ施設で実習させていただいたが、その時を含めて長期間関わることができ、一人ひとりの利用者に対する見方が変わってきた
集中型の実習と比較して良くなかった点	・他の曜日の業務や行事を見学、体験することができなかった（４） ・実習日以外の利用者の様子を観察することができなかった（４） ・1週間前のことを思い出すのが容易でない（３） ・なかなか利用者の名前を覚えられなかった（２） ・利用者の特徴、利用者のあった介護法を覚えるのに時間がかかる（２） ・実習施設の介護方針、介護方法を把握するのに時間がかかった（２） ・間があくので指導を受けたことがなかなか活かすことができなかった（２） ・実習日に気持ちの切り替えを上手くできなかった（２） ・利用者になかなか覚えていただくことができなかった（１） ・1週間たつと、入院されていたり亡くなっていたりする利用者がおり、その経過がわからずに戸惑うことがあった（１） ・毎日、連続して計画を実施したいが、週2日しか実施できなかった（１） ・実習日以外の（自分自身の）生活リズムをつくるのが難しい ・利用者から自分の存在を忘れられてしまった ・利用者の方が望んでいることをそのまま介護計画にすることができ、ともに長期間取り組むことができたので、ともに喜びを分かち合うことができて良かった ・慣れてきたころに実習が終わってしまった。	・利用者の特徴、利用者のあった介護法を覚えるのに時間がかかる（６） ・実習施設の介護方針、介護方法を把握するのに時間がかかった（６） ・授業と実習の両立が大変だった（授業でレポートを課されたときなど）（２） ・なかなか利用者の名前を覚えられなかった（２） ・1週間前のことを思い出すのが容易でない（２） ・利用者になかなか覚えていただくことができなかった（２） ・5日間実習施設に行かない間に利用者の状態が大きく変化してしまうことがあり、それを把握するのが大変だった（１） ・実習日以外の利用者の様子を観察することができなかった（１） ・実習が長く感じた（１） ・実習日に気持ちの切り替えを上手くできなかった（１） ・間があくので指導を受けたことがなかなか活かすことができなかった ・毎日、連続して計画を実施したいが、週2日しか実施できなかった ・職員の方から「毎日いなければわからないことがある。もったいない気がする」と言われた ・職員の方は指導しづらいと仰っていた

調査年 質問項目	H22年度	H23年度
実習と並行して行った「介護過程Ⅲ」の授業で役立ったこと	・先生や皆からアドバイスをもらえるので1人で悩むことがなかった（１１） ・様々な角度から意見をもらえるので次の実習に活かすことができた（7） ・次回実習で行うべきことを明確にしてから実習に入ることができた（5） ・自分の取り組みについて自己評価をしたり、他者評価、教員からの評価を受けることができて良かった（5） ・実習巡回よりも密度の濃い指導を受けることができた（1） ・常に基本に戻って考えることができた（1）	・様々な角度から意見をもらえるので次の実習に活かすことができた（１１） ・先生や皆からアドバイスをもらえるので1人で悩むことがなかった（１０） ・自分の取り組みについて自己評価をしたり、他者評価、教員からの評価を受けることができて良かった（5） ・記録の書き方などについて時間をかけて指導を受けることができて良かった ・授業を受けることで実習に対するモチベーションが高まり、最後まで維持することができた（3） ・グループワークを通じて、大きな発見がたくさんあった（2） ・実習巡回よりも時間をかけて指導をしてもらえたので良かった（1） ・自分が見落としていることを同級生や先生から指摘してもらえたことが良かった ・先生の指導を受け、同級生の意見も参考にして自分の考えを整理してから指導者の質問、相談、提案できる ・自分が担当している利用者のほかに、同級生が担当している利用者への援助も学ぶことができるので勉強になる ・介護過程を展開する上で必要となる介護や医学の知識について、自分に欠けている知識を補うことができた
今回の実習で苦慮した点	・利用者の方に合った介護計画の作成の難しさを改めて感じた（4） ・アセスメントが十分にできなかった（3） ・指導者の方とすれ違いになることが多く、なかなか相談することができなかった（2） ・対象者が実習途中で体調不良になり計画通りに実行できなかった ・なかなか施設に馴染むことができず職員に質問しづらかった ・2か月半という期間は長すぎる ・初めのころは実習と授業の両立で悩んだことがあった	・指導者の方とすれ違いになることが多く、なかなか相談することができなかった（3） ・介護計画の実施が思うように行かず、アセスメント不足を感じた（1） ・提出物が多くて大変だった（1） ・ショートステイでの実習だったのでほとんどの利用者が毎週入れ替わり大変だった ・利用者の変化についてゆくことに苦労した ・雪が降った日は通うのに大変だった ・実習指導者と介護支援専門員の許可を得て介護計画を実施したのだが、看護師の方に注意されたので、どの職種に許可を得るべきか、事前に実習指導者に相談しておくべきだった
自主実習についての意見	・事前に施設の概要を把握することができて良かった（3） ・配属されるフロアでボランティアさせていただいたことで、利用者の方の名前を覚えたり、職員の方に名前を覚えていただくことができた（2） ・自主実習のおかげで本実習にスムーズに入ることができた（2） ・自主実習と本実習の間が空きすぎてしまったため振り出しに戻ってしまったようだった（2） ・お忙しいようで自主実習を受け入れていただくことができなかったのが残念だった（2） ・前回実習から間があいているため、自主実習を通じて、気持ちを切り替え、間隔を取り戻すことができた。 ・利用者の方と関わる時間を十分につくっていただけて良かった ・可能ならば1週間程度行かせていただきたかった ・ボランティアという立場なのか、実習生という立場なのか、戸惑うことがあった	・事前に施設の概要を把握することができて良かった（8） ・本実習で配属されるユニットで自主実習させていただいたため利用者の顔と名前を3日間で覚えることができた（3） ・できれば実習で配属されるフロアでさせていただきたい（2） ・自主実習の際に指導者の方と時間をかけて打ち合わせをさせていただけたので良かった（1） ・自主実習と本実習の間が空きすぎてしまったため振り出しに戻ってしまったようだった（1） ・自主実習のおかげで本実習にスムーズに入ることができた（1） ・ボランティアという立場ではなく実習生という立場で行きたかった ・３日間では足りないので、可能であればもう少し実習したい ・３日間の自主実習は日数、内容ともに良いと思う
介護過程展開実習をより良いものにするための意見	・利用者や業務の把握に時間がかかるので、週3日くらいはあった方が良い（4） ・可能な限りで木金以外の日も実習させていただきたい（1） ・集中型の方がいいと思う ・事前学習をしっかりしておくことが重要だと改めて感じた ・前の週に学んだことを忘れないためにも記録やメモをしっかりしておくことが必要 ・実習指導者と連絡を密にとることが必要 ・先生によく相談することが必要	・集中型実習よりもこの実習の方が良い（1） ・前の週に学んだことを忘れないためにも記録やメモをしっかりしておくことが必要 ・集中型実習以上に職員の方とのコミュニケーションを図ることが必要 ・週3日くらいは実習した方が良い ・グループワークに欠かさず参加すること

（　）は同様意見の数

（図表７）実習指導者に対するアンケート調査の結果

実習施設	調査年	従来の実習と比較して良かった点	学生指導や学生対応等で苦慮した点	自主実習についての意見	介護過程展開実習をより良いものにするための意見
A	H22	利用者を長期間見ることができる 学生の精神的負担は少ない	木曜日と金曜日に行われない介護や活動（ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ等）に参加できないので一部、日程を変更してもらえると良い	複数の学生が実習する場合は、同一日に自主実習をしてほしい	実習日以外は、実習生のプランを職員が行うようにすると良いと思う
	H23	利用者の変化を知ることができたのではないか？ スタッフとも良いコミュニケーションが取れた	記録の書き方、漢字の使い方などにもう少し努力が必要である	事前に施設の雰囲気を知ることができ、学生、職員ともにスムーズに実習に入ることができた	実習日は全日入浴のため、同じ実習内容ばかりになってしまった レク、アクティビティがある他の曜日の実習も体験して欲しかった
B	H22	心身ともに学生の負担は軽減される 課題に取り組むにあたっても効果的	無回答	無回答	受け入れに関して他校との調整が難しい点があります
	H23	心身ともに負担が軽く、課題に取り組む時間的な余裕があり、大学からの指導も受けやすいという効果がある	特になし	特色の異なるフロアの両方を見てもらうことができた	疑問点は大学に持ち帰ればいいと思っているのか、職員への質問が少ない せっかくの機会なので現場の生の声を聴いてほしい
C	H22	生活の場の視点でアセスメントできると思う	実習が長期になるため利用者の入院等が生じるリスクが高くなる 途中で利用者が入院されると、プランの実施が困難になる	学生自身が目的・目標を明確化する必要がある	人間理解の必要性を感じる
	H23	利用者の状態の比較やケア内容の振り返り、見直し等の考えたときに、このような形態の実習の方がメリットが大きい 施設側としても指導体制面の組み立てに際しとてもやりやすかった	特になし	実習前半からの適応が早いので良い試みだと思う 学生の負担にならないのであれば継続してほしい	夜勤実習の際、学生の交通手段によって安全面で問題が生じることがあるため、事前の十分な打ち合わせが必要
D	H22	学生が時間をかけて考えたり、教員や指導者からのアドバイスを十分に受けることが可能	特になし	本実習にスムーズに導入できたので大変良かった	無回答
	H23	振り返りの時間が十分にあり、実習場面で活かされていると感じた	集中型の方が職員、利用者との関係は構築しやすい 同じ曜日の実習なので実習内容に偏りが出る	導入がスムーズにできるため大変良いと思う	無回答
E	H22	対象者の状態を長期にわたり見ることができる	実習日に学生と会うことができないと、学生の状態の把握が難しい 間に５日あいてしまうと学生が現場に適応するのが難しいのでは？	特になし	特になし
	H23	大学側の指導を十分に受けられるので実習しやすいのではないか？	人見知りする学生は、集中型よりも職員と馴染むのに時間がかかるため、大変なのではないか？	とても良いことだと思う	週３日くらいがちょうどいいのではないか？

実習施設 調査年 ＼ 質問項目		従来の実習と比較して良かった点	学生指導や学生対応等で苦慮した点	自主実習についての意見	介護過程展開実習をより良いものにするための意見
F	H22	学生は気持ちの余裕をもって実習に臨むことができる	学生によっては、施設に馴染むことができず、実習を終える人が出てくる可能性があると思う	事前に施設の雰囲気を知ってもらえるので良い	施設側としては集中実習が望ましいが、隔週実習なども考えられるのでは？
	H23	現場での指導が行き届かない部分を大学でフォローしていただける点	継続性を持って指導することが困難 日数がある分、体調管理が行き届かず、欠席や提出物の遅れが目立った 前回までに教えたことを確認し直す必要があった	３日間は妥当 自主実習を欠席した際の対応を明確にすべき	１週間当たりの実習日数をもう少し増やし短期間で終わるようにする
G	H22	学生が焦らず利用者と関わることができたと思う	曜日が決まっているため関われない業務（リハビリや一般浴等）が出てくる	主にコミュニケーションをとってもらいました	今までの実習で当施設に来たことがある学生であればさらにスムーズに実習に入ることができたと思う
	H23	現場で解決できなかった疑問や課題は大学で解決できるので学生は心強いのではないか	「ケアプランも大学で…」というのはどうなのか？ リセットされてくることも多かった	９月は行事で忙殺されることが多いので受け入れはできない	良い点、悪い点があると思う
H	H22	じっくり実習が行えると思う 利用者の方のアセスメントも一時的なものではなく本来の姿が見えやすいのでは？	曜日が決まっているため関われない業務が出てくる 職員と実習生の間の連絡、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝが図りづらい	無回答	最初の１週は集中型で、それ以降は週２日で行う方法もあると思う
	H23	集中型は課題が次々迫ってくる感じで余裕のなさを感じるが長い期間の実習では準備期間もあり考える時間を十分にとることができる	積極性に乏しく、コミュニケーションをなかなかとらない学生がおり、指導しても改善が見られなかった	利用者、施設の雰囲気を感じ、だいたいのケアの方法を知る機会になるので良いと思う	無回答
I	H22	従来の集中型よりも日程が組みやすかった	無回答	明確な目的を持って実習に臨む必要がある 自覚がなければ自主実習は不要	定期的に（実習指導者の）勉強会を開催してほしい
	H23	学生にとっては考えを整理する時間ができて良いと思う。	指導者は業務を行いながらの指導になるので丁寧な指導ができず申し訳なかった	位置づけが分からず対応に戸惑った オリエンテーションで十分では？	間隔があいてしまい利用者も変化するのでもう少し連続した日数、間隔が近い方が良い
J	H22	次の実習日までに学生がまとめや考察をすることができ、落ち着いて課題に取り組める	無回答	実習にスムーズに入ることができた	実習日にもう少し自由度があると良いと思う 終末期にある利用者の場合、週２日の実習だと逆に変化を把握しづらい
	H23	無回答	特になし	学生自身がどのようなボランティアをしたいのか、明確にしてきてほしい	無回答
K	H22	利用者も学生が来る日を楽しみにしている	不在日に確認したいことができない	もっと明確な目標を持って臨んでもらいたい	無回答
	H23	特になし	集中型の方が指導しやすい。 指導者間の引継ぎがうまく行かないことがある。	目標を明確にした上で来てほしい	無回答

実習施設	調査年	従来の実習と比較して良かった点	学生指導や学生対応等で苦慮した点	自主実習についての意見	介護過程展開実習をより良いものにするための意見
L	H22	介護過程展開を行う上では余裕があって良い（従来はいつもギリギリだった）	利用者がなかなか学生のことを覚えられない	施設の様子を把握する上でも、対象者を選定する上でも大変良かった	１週目は集中の方がよい ケアプランの実施もある程度継続する必要があるので週３～４日程度の実習が望ましい
	H23	実習を進めるうえで時間をかけて打ち合わせができるのでスムーズに行えたと思う	特になし	実際の実習にスムーズに入れたので良いと思う	学生にとっては良いかもしれないが、利用者（特に認知症の方）にとっては苦労することもある 週３～４日くらいは連続して実習した方がよい
M	H22	学生に成長が見られない	学生の態度が悪い	利用者の観察、施設の把握をしてもらおうと思ったが、自ら学びとろうとすることがなかった	特になし
	H23	利点は感じられない	利用者の特性を理解するのに時間がかかっていたようだが、覚えない間に実習に来なくなり、また実習に来るためだと思う	事前に見学・体験し、自分のポリシーに合わないと思えば他の施設に行くことができればいいのにと思った	自発性を持って実習してほしい
N	H22	特になし	学生が前回のことを思い出すのに時間がかかる 職員も指導が重複することが多かった	事前にコミュニケーションがとれる 学生自身がある程度リラックスして実習に臨むことができる	施設側としては集中実習が望ましい
	H23	振り返る時間が十分にあったこと ストレスが低かったのではないか?	特になし	利用者の名前、顔を把握することができ、業務の流れをつかむこともできた	水曜日（実習日以外）にサービス担当者会議が開催されていたのでぜひ出席してほしかった
O	H22	実習と授業を両立することで良い効果があるのではないか？	無回答	無回答	無回答
P	H22	他校と実習期間が重複している場合、担当する職員を調整しやすい 学生の精神的負担が少ないのでは？	施設からの確認事項や連絡等が遅くなることがあったので早めの対応の必要性を感じた	特になし	施設と学校の連絡を密にして進めていければ良いと思う
Q	H22	特になし	どこまで指導したか、理解しているのか、把握が難しい	利用者の名前や施設の日課など、少しは学んでから本実習に入れるので良い	無回答
R	H23	集中型だと緊張感が強くストレスが大きいがこの形態ならば負担が少ない 曜日が決まっていてわかりやすい	特に問題はなかった	いきなり実習に入るよりは施設の様子を見ることもできるので良いと思う	ケアプラン作成にあたっては実習生と指導者の連絡を密にする必要があると思う
S	H23	長期間、利用者と関わることで、十分に観察、考察する時間があったこと 変化を感じることができたこと	職員が慣れていないため十分に対応できない場面があった 日誌提出から返却までに時間がかかるため次の実習に活かせていないと感じた	自主実習では施設全体を体験してもらい実習したい場所を学生に選んでもらった 場に慣れてもらうためには良いことだと思う	前回のことを忘れてしまったり、利用者の顔と名前を把握できず困っている場面が見られた 学生によって向き、不向きがあると思う
T	H23	実習で学んだことを振り返ったり、整理したりできる 学生からは多くの質問が出された	特になし	実習の目標を明確化する上ではよい取り組みだと思う	無回答
U	H23	後半になると利用者の変化に気付くことができたり、施設で行われる行事への参加機会も増えること	利用者の把握に時間がかかる 職員が交替勤務のためコミュニケーション不足になる	ボランティアとしての自主実習は適切であったと思う 施設全体を体験した上で実習する場所を決定した	早く施設に慣れ、利用者を把握するためにも、初回の週だけでも３日間連続で行えると良いと感じた
V	H23	学生の疲労は軽減された 毎週、新鮮な気持ちで実習に入ることができた 長期のため参加できる行事が増えた	継続的な指導をすることができない 利用者との関係づくりが困難 コミュニケーションを取りにくい様子がうかがえる	ボランティアなのか、実習なのか、受け入れ側としては不明確では困る ボランティアではなく正式な実習として対応してほしい	学生にとっては集中型の方がアセスメントや介護計画、実践をしやすいのではないか

方が良い」という意見があった。

介護過程展開実習をより良いものにするための意見として、学生からは、記録、事前学習等、自己の努力の重要性を指摘する意見が目立った。実習指導者からは、１週当たりの実習日を３日にするなど実習日程の再検討についての指摘が目立った。

学生のみを対象とした質問項目であるが、実習と並行して行った「介護過程Ⅲ」の授業についての意見として、「教員や同級生からアドバイスを受けられるので一人で悩むことがなかった」「様々な角度から意見をもらえるので、実習に活かすことができた」「次回実習で行うべきことを明確にしてから実習に入ることができた」「授業を受けることで実習最終日までモチベーションを維持することができた」などの意見が目立った。

３－３　考察

アンケート調査の結果から、本学が実施した長期実習により介護過程を学ばせる方法は、集中型の実習と比較して、１）学生が実習の中で介護過程を学ぶ時間を確保することができる　２）学生の身体的、精神的負担を軽減することができる　３）長期にわたって対象利用者と関わり、観察することで介護過程を展開しやすい　４）適宜、教員が学生の実習状況を把握することができ、続きの実習に指導をフィードバックしやすいなどの特徴があると考えられる。これは、本学が長期実習の形態を採用したねらいに沿うものであったため、一定の成果はあがったものと考えられる。

一方、長期実習の問題点としては、１）学生が実習する曜日が限定されていることから体験できる業務に偏りが生じる　２）学生が実習施設に適応し、利用者や業務を把握する上で相応の時間を要する　３）実習指導者と学生がすれ違いになりやすく、実習指導者が学生の状態を把握し適切な指導を行ったり、学生が指導者に相談したりすることが困難な場合があるなどが考えられる。これらの中には、集中型実習であっても生じる問題、新しい実習形態に慣れていないために生じる問題なども含まれているが、多くは学生の努力、教員の指導に加え、学生、実習指導者、教員の３者間のコミュニケーションの円滑化を図ることによって問題を軽減することができるものと考えられる。

自主実習について、上記で述べた問題点が想定されたため導入した経緯があるが、その有効性については多くの学生、実習指導者が評価している。一方、１）ボランティアか、実習かの位置づけを明確化すること　２）学生の自主実習に対する目的意識を明確にするための指導を強化することが必要であること　３）実習指導者に対して自主実習の目的をより理解していただくための働きかけを行うこと　４）適正な日数、時間数について再検討が必要なことなど、運用にあたっての課題が明らかになった。

長期実習をより良いものにするための課題としては、多くの実習指導者が週２日間という実習日程についての再検討を要望していることもあり、長期実習のメリットを損なわない範囲において、検討する必要があるものと考えられる。

学生の少人数グループを編成して、実習と並行してグループスーパービジョンを行った「介護過程Ⅲ」の授業については、多くの学生がその利点を評価しており、無記名の調査にもかかわらず一切の否定的な意見がなかったことからも、実習で介護過程を学ばせるためには不可欠なプログラムである考えられる。

４．今後の課題

長期間、継続して実習を行う例は、社会福祉士養成教育の中で実践例があるものの[3]、介護福祉士養成教育の中ではほとんど見られない。また、社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴う新カリキュラムにおける介護過程の教育方法に関する研究は多くない。本稿の意義は、介護福祉士の新カリキュラムにおける長期実習とそれに並行して行われるグループスーパービジョンを特色とする本学の介護過程の教育方法の効果と問題点について、学生および実習指導者からのアンケート調査から考察することにあった。その結果については前述のとおりであるが、調査対象の母数が少数であること、アンケートの質問項目には選択肢を設けず、自由記述としたため、量的な分析を行わなかったことにより、この結果をもって適正な効果測定を行うことには限界がある。引き続き、学生、実習指導者に対するヒアリングを行い、データを蓄積することを通じて、適正な教育効果の測定を行うことが今後の課題である。また、今回のアンケート調査によって明らかになった問題点について、指導上の問題で早急に改善可能な短期的課題と教育体制全体の見直しを含む長期的課題があるが、いずれも改善に向けた対策を講じてまいりたい。

謝辞

実習指導ならびにアンケートにご協力いただいた実習施設の皆様に御礼申し上げます。

引用・参考文献

１）国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」
http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/suikei07/index.asp

２）厚生労働省・介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会、「これからの介護を支える人材について―新しい介護福祉士の養成と生涯を通じた能力開発に向けて」，2006．7，
http://www.mhlw.go.jp/shingi/2006/07/s0705-6.html

３）北爪克洋「ソーシャルワーカー養成のための通年型実習についての検討」社会福祉士，13，2006．2，77-83ページ